



# 近江の肖像

## はじめに

肖像とは、人物の顔や姿を写しとった絵・写真・彫刻などをいいます。皆さんの家にも先祖の写真や肖像があることと思います。

本県は、古くから京都に隣接していたことや、天台宗の本拠地として華麗な仏教文化が栄え、また、上洛を目指す戦国の武将たちが活躍したところですから、その時代に中心となった人たちの肖像が、絵画や彫刻の形で貴重な文化財として今日に伝えられています。

しかし、その数は少なく、650件を数える国や県指定の美術工芸品のうち、肖像と考えられるものは30件余りにすぎません。それでも、残された作品は優れたものが多く、それぞれの人物についていろいろのことを物語ってくれます。

肖像は、人間の持っている個性をあるがままに表現したものとして、歴史上のすぐれた人物を知り、その時代を考える上で大変興味深いものです。

## 高僧の肖像

延暦25年(806)、伝教大師最澄(767~822)は比叡山に天台宗を開きましたが、最澄の肖像としては坂田郡山東町・観音寺の木造伝教大師坐像(重要文化財)があり、現在は比叡山の延暦寺秘宝館に安置されています。この肖像彫刻は、最澄の没後400年ほどたって造られたものですが、閉目端座して止観瞑想にふける姿をよく表わし、鎌倉時代のリアリズムを反映していて、大師のまじめでひたむきな性格を目のあたりに見るようです。「国宝とは何物ぞ、宝とは道心なり、道心ある人を名づけて国宝となす」と、また「一隅を照らす



此れ即ち国宝なり」と山家学生式の中で述べ、道心ある人を作ることを念願とした大師のほとばしるような情熱が、この寡黙に端座する像から充分うかがえます。

延暦寺中興の祖といわれる良源(912~985)は、浅井郡の生れで、後に18代座主について人です。慈恵大師と呼ばれていますが、正月三日に入寂したところから元三大師ともいわれ、また悪魔降伏の修法に優れていたことから、魔除けの角大師の護符として特異な信仰

の対象になりました。中世になって慈恵大師が深くあがめられ、比叡山の僧栄盛は一生のうち33軀の大師像を造ることを念願としたほどでした。本県内には、重要文化財に指定されている木造慈恵大師像が6軀ありますが、いずれも、意志の強そうなまゆ、鼻・あご、眼光のするどい目など、作者が祈りを込めて護法の人としての大師を捉えたものと考えられます。

次に、比叡山の横川において浄土教を発展させた恵信僧都源信(942~1017)も忘れてはならない人です。国内だけでなく、遠く中国大陸にまでその名が聞えたといわれる『往生要集』を著わした高僧です。また、藤原貴族に大きい影響を与え、造寺造仏の優美な仏教美術の華を咲かせたそのもとを開いたのが源信だといわれています。その肖像の代表的なものとしては、絹本著色の恵心僧都画像が、大津市の聖衆来迎寺に伝えられています。穏やかな面相の中にも、高僧としての念仏弘通の強い意志を感じることができま

す。比叡山延暦寺の天台を山門というのに対し、



▲木造伝教大師坐像（観音寺蔵）

寺門の名で呼ばれる園城寺（三井寺）があります。天台寺門宗（総本山園城寺）の開祖円珍(814~891)は天安二年(858)唐から441部1,000巻の經疏を携えて帰朝し、その10年後、天台座主（5世）につき、第13世尊意に至るまで7代の座主を門下生から出したほどの高僧でした。この智証大師円珍の肖像は、園城寺唐院の大師堂に秘仏として安置されています。それは2軀の木造智証大師坐像で、平安時代初期の代表的な肖像彫刻であり、国宝に指定されています。幾たびかの山門・寺門の争がありました。一山守護の尊像として大切に保持されて来たことが知られます。同寺に伝えられるもう一軀の木造智証大師坐像（重要文化財）は、他の大師像と同じように頭頂の高い智証大師の特徴をよく表わしたものです。

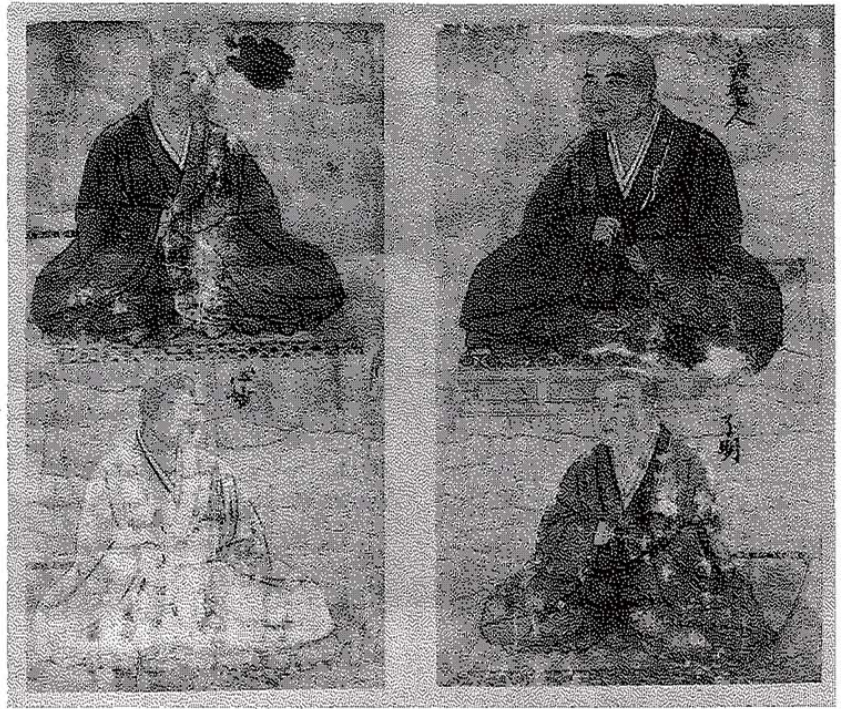
これら天台の高僧像のほかに、真言宗石山寺を中興した淳祐内供（しんにゅう・しゅんにゅうともいう。890~953）の像が、石山寺境内にある硯灰岩層（天然記念物）の上に建つ御影堂にまつられています。



▲木造智証大師坐像（園城寺蔵）



◀ 絹本著色 佐々木高氏像 (勝楽寺蔵)



▲ 紙本著色 絵系図 (妙楽寺蔵)

また、湖東愛知川の清流に清浄心を高揚した臨済宗永源寺の開祖・寂室元光(1290～1367)の坐像も石山寺の内供像とともに、中世の塑造の彫刻として大変貴重なものです。

### 武将の肖像

近江は交通の要衝、文化の回廊でありましたから、中世から近世にかけて、武将たちが京都をめざして疾駆し、天下の覇者を夢みた名残りが城趾として各地に残されていますが、県内に伝承されている武将の肖像は数えるほどしかありません。それは、武将の肖像は、その菩提寺にまつられる風習があり、近江で活躍した武将でも京都周辺の禅寺の塔頭にまつられたからでしょう。

それら数少ない肖像の中で特異なものとしては、室町幕府において「婆沙羅大将」として異名をとった近江の守護佐々木高氏道誉(1306～1373)の肖像が甲良町の勝楽寺にあります。絹本著色の、法体で曲案に座っている偉丈夫の高氏像は、長寿を願って描かれた寿像で、高氏自身の賛から貞治5年(1366)に描かれたことがわかります。室町武将の肖像としてすぐれたものであり、また、鎌倉時代から戦国時代にかけて輩出した佐々木一族の

肖像としてはまことに珍しいものです。

湖北の小谷城主であった浅井長政(1545～1573)は、天正元年(1573)信長によって滅ぼされました。小谷城趾保勝会の所蔵している絹本著色浅井長政像(県指定文化財)は、没後1周忌に描かれたことが賛によってわかり、端正な青年武将の容貌がしのべられます。

また、長浜城を築いた豊臣秀吉(1536～1598)の肖像が大津の西教寺に伝えられています。天下人になった秀吉の絹本著色像ですが、慶長5年(1600)秀吉の死後ほどなく描かれたもののようで、伝えられる秀吉の面貌がよく表われている肖像画といえます。

### むすび

以上、県内にある肖像の中から、国や県の指定文化財になっているもののいくつかを見てきたのですが、このほかにも、まだ指定されていないもので高僧、大名、武将、学者、俳人、近江商人の像など貴重なものが数多くあり、これらのものも近江の人物を物語る文化財として、その調査と保存がまたれるところです。そのほか、真宗仏光寺派に伝えられる絵系図などは、庶民の連綿として続く肖像画として注目されるものです。

## 近江の肖像一覧表（国指定・県指定）

昭和51年2月1日調

種別	名称	時代	所在	所有者
重絵	絹本著色天台大師像	鎌倉	大津市	園城寺
重絵	同	同	同	同
国彫	木造智証大師坐像	平安	同	同
国彫	同	同	同	同
重彫	同	同	同	同
重彫	木造弘文天皇坐像	平安～室町	同	石坐神社
重彫	木造維摩居士坐像	平安	同	石山寺
重彫	塑造淳祐内供坐像	室町	同	同
県像	木造聖徳太子立像	鎌倉	同	国分聖徳太子会
重絵	絹本著色天台大師像	同	同	延暦寺
重絵	同	同	同	同
重絵	絹本著色相応和尚像	同	同	同
重彫	木造光定大師立像	南北朝	同	同
重彫	木造維摩居士坐像	平安	同	同
重彫	木造慈恵大師坐像	鎌倉(弘安九年)	同	同
重彫	同	鎌倉(文永二年)	同	同
重絵	絹本著色天台大師像	南宋	同	西教寺
重絵	絹本著色豊臣秀吉像	桃山(慶長五年)	同	同
美絵	絹本著色慈威和尚像	南北朝	同	同
美絵	絹本著色前田菊姫像	桃山(天正十二年)	同	同
重彫	木造慈眼大師坐像	江戸	同	恵日院
重彫	木造慈恵大師坐像	鎌倉(文永四年)	同	求法寺
県絵	絹本著色恵心僧都像	鎌倉	同	聖衆来迎寺
重彫	木造空也上人立像	同	近江八幡市	莊嚴寺
重絵	絹本著色聖徳太子像	同	草津市	観音寺
重彫	塑造寂室和尚坐像	南北朝	永源寺町	永源寺
県絵	紙本著色絵系図	南北朝～室町	能登川町	妙楽寺
重彫	木造慈恵大師坐像	鎌倉(弘安元年)	秦荘町	金剛輪寺
重彫	同	鎌倉(正応元年)	同	同
重絵	絹本著色佐々木高氏像	南北朝(貞治五年)	甲良町	勝楽寺
重絵	絹本著色聖徳太子像	室町	山東町	成菩提院
重彫	木造伝教大師坐像	鎌倉	同	観音寺
県絵	絹本著色一向上人像	同	米原町	蓮華寺
重彫	木造慈恵大師坐像	同	虎姫町	玉泉寺
県絵	絹本著色浅井長政像	室町	湖北町	小谷城趾保勝会
重彫	木造伝教大師坐像	鎌倉	高月町	高野神社

(注)種別欄の記は、次のとおりである。

国彫－国宝・彫刻　重絵－重要文化財・絵画　重彫－重要文化財・彫刻　県絵－県指定文化財・絵画　県彫－県指定文化財・彫刻　美絵－重要美術品・絵画